

介護老人福祉施設には、介護員、看護師など入所者を直接介助する職種がありますが、「生活相談員」はあまり知られていない職種かと思えます。

「生活相談員」の主な業務は、入所者やこれから入所しようとする方の心と身体状況、そして住んでいる環境などについて適切に把握します。また、入所者や入所しようとする方の家族から受けるいろいろな相談を一緒に考え、時には助言も



池幸園主任生活相談員 松浦 利枝

します。入所者の生活内容や、介助の方法を決める施設サービス計画を作成する施設内の介護支援専門員と協力しています。施設によって担当する業務は違いますが、私は入所申し込みの相談、苦情の受け付け処理、実習生・ボランティアの受け入れ、ショートステイの予約、介護報酬の請求、そして地域の方々の窓口としての仕事をしています。施設への入所申し込みの相談においては、明日にでも入所したいと切実

な現状を訴えながら来園されるご家族の方が多くいますが、現在の入所申し込み数が450人ほどと多く、すぐには入所できないのです。その現状を説明するとともに、入所するまでの生活をどのようにすればよいかを一緒に考え、必要な手続きなどを説明しています。

多くの入所申し込みがあるのは、池幸園が市街地にあり、面会に来園する時の利便性が考えられます。また、「数年前に入所したが、まだ順番



います。高齢者がお互い介護する「老老介護」や物忘れの高齢者が困っているのに、ただちに入所できないのが現状です。そんな時、どのような介護サービスで対応できるのか、利用者や家族の状況をうかがいます。特に家族は「身内だと、なかなか冷静になれず、ついつらく当たってしまう」と苦しい立場の中で高齢者を支えていることもあり、そのような状況を受け止めて助言しています。

適切に把握・助言

はこないのか、いつになったら入所できるのか？」と分かりました。Aさんという入所申込者やご家族からの問い合わせも多々あり、現状を説明する際は、いつ入所できると話でなければと思うと申し訳ない気持ちで先に立ちます。

さわやかに晴れたある日、80歳を超えたと聞かれる、はつらつとした方が友人と2人で相談に見えました。この方をAさんと呼びます。Aさんは「池幸園に入るにはどうしたらいいか」と矢継ぎ早に質問してきました。いろいろ話をお聞きしたところ、それはAさんの

ことであり、一人暮らしで「介護認定を受けてから来た」といったことはすっかり忘れており、再び同じ内容の繰り返しで、心配事を訴えるのでした。Aさんが話す二つ二つに今から入所の手続きをおきたいと考えたようでした。付き添ってきた友人のように介護度の認定を受けることが必要であることを説明したところ、「次は介護度の認定の申し込みをして来るか」と笑顔で帰られました。

次に梅雨期の蒸し暑い日、やはりお昼近く、Aさんが今度は違う友人と2人で来園しました。話の内容は前回と同じで、相談員とは、このように何の解決もできなくとも、話を聞くだけで高齢者が心配していることを和らげてあげることもあるということを痛感して

生活相談員は利用者のことを一番に受け止めなければなりません。第三者に客観的に話されると、家族も納得できるといふ場合もあるようです。今後も入所者、利用者や家族の相談に備え、最善の介護サービスを受けるためには福祉に関するサービス全般を周知し、有効に社会資源を活用して、利用者やご家族にとって、その場その時に適した説明ができるよう、これからも努力していきたいと考えております。

このコーナーは第2、第4水曜日付に掲載予定。